

第八十六回
帝國議會
貴族院

外資金庫法案特別委員會會議事速記録第八號

付託議案

○軍需金融等特別措置法案

昭和二十年二月六日(火曜日)午後一時三十分開會

○委員長(芳澤東鄉安君) 開議致シマス

軍需金融等特別措置法案ニ關シマシテ、尙御質疑ガアリマシタナラバ、此ノ際御述ヲ願ヒマス。

○松本泰治君

私ハ大藏大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイ、ソレハ色々ノ事情カラ、私ノ改正案ノ提出ハマダシテ居リマセ、能ク御所見ヲ伺ツタ後ニ、直チニ其ノ提出ヲシタイト實ハ考ヘテ居リマス、其ノ上ハ或ハ議題ニ其ノ改正案ガナルカト思ヒマス、ドウ云フ改正ヲ私ガ欲シテ居ルカト云フコトハ、實ハ屢、此ノ委員會ニ述ベマシテ、又其ノ理由ニ付キマシテモ相當委員各位ヲ御煩ハシスル程幾度力申上ゲテ居リマス、今更此ノコトヲ申上ゲルハドウカト思ヒマスガ、ソレヲ申上ゲタクナイノデアリマスルガ、私ノ想像スル所ニ依リマス、大藏大臣モ或ハ出席サレタ政府委員カラ御聽ニナリマシテ、私ガドウ云フ風ナ修正案ヲ提案シタイト考ヘテ居ルカト云フコトハ御承知カト思ヒマス、若シ御承知ガナレバ、其ノ案自體ノコトヲ申上ゲルノミナラズ、其ノ理由ヲ詳細ニ述ベナレバナラヌノデゴザイマスガ、是ハ餘リ時間ヲ取リマシテドウカト思ヒマスガ、大藏大臣或ハ御承知デアルカドウカ、其ノ文句ダケヲ申シマス、是カラ後デ提出シタイト思ツテ居リマス修正案ハ、此ノ法

案第十五條ノ第二項ヲ改メマシテ、

「工場抵當法第五條ノ規定ハ、前項ノ規定ニ依リ同項ノ財目録ニ一括表示セラレタル物件ニ付テ之ヲ準用ス」ト改メタイ、其ノ理由ハ、大藏大臣ニ多分御傳言ニナツテ居ルカト思ヒマスノデ申上ゲマセヌガ、唯一言申上ゲテ置カナケレバナラヌコトハ、サウ改メマスコトハ、政府ノ此ノ立法ヲ爲サツタ御趣旨トハ内容ニ於テ一ツモ違ハナイ、唯文言ガ改マルダケデアアル、然ラバ内容ノ違ハナイコトニ文言ヲ改メルト云フコトハハカシイト或ハ御考ニナルカモ知レマセヌガ、サウデハナイ、政府ハ此ノ第十五條ニ依ツテ御考ニナツタコト自體ハ結構デアアル、其ノ内容ニ付テハ毫モ私ハ異議ハナイノミナラズ、贊成スルノデアリマスルガ、此ノ原案ノ第二項ノ書キ方ハ、財目録ニ記載ノアル通常ノ場合ニ於キマシテ、此ノ記載ノアル財目録ニ付テハ、即時取得ニ關スル規定ハ絕對ニ適用ナイノダト云フコトヲ前提トシテ、書カレテ居ルヤウニ考ヘラレ、政府委員ニ伺ヘバ左様ダト言ハレ、其ノ結果此ノ新ナル立法ニ依ツテ通常ノ場合ニハ即時取得ノ規定ガ全然適用ヲ除外セラレテシマフコトニナル、ソレハ甚ダシキ害毒ヲ流スデアラウ、動産取引ノ安全ハ全ク保護サレナイヤウニナリマスノデ、實ニ恐ルベキコトニナルダラウ、譬ヘテ申セバ其ノ規定自體ハ非常ニウマイ河豚ノ御料理ミタイナモノデアアルガ、不幸ニシテ河豚ノ毒ガ入ルヤウナ工合ニシテ居ル、ソレハ困ルカラ其ノ毒ダケヲ除

イテ河豚ノ御料理ダケ大丈夫ノモノニシヨウト云フ意味デ私提案シテ居ルノデアリマス、左様ナ趣意デ細カイコトハ多分大藏大臣御承知ト思ヒマスガ、斯クノ如キ提案ヲ是カラ私ハシタイト思ツテ居リマスガ、之ヲシマシテ幸ニシテ多數ノ方々ノ御同意ヲ得ルヤウナコトモアルカモ知レマセズ、或ハドウナルカ分リマセヌガ、是ガ幸ニシテ多數ノ方々ノ御同意ヲ得マシテ、左様ナ修正案ガ成立ツヤウナ時ニ於テハ政府ハドウ云フヤウニ御考ニナルカ、ソレハ絕對ニイカナイコト云フヤウナ御考デアルカドウカト云フコトヲ、審議ヲシマシタリ又提案ヲ致シマスルニ付テ必要ナコトトシテ伺ツテ置キタイノデ御答ヘ出来レバ伺ツテ置キタイ

○國務大臣(石渡嘉次郎君) 松本委員

御意見ニ付キマシテハ私ハ此ノ委員會ニ出席致シ兼々場合ノ話ニ付キマシテモ政府委員カラ總テ話ハ聞イテ居リマシテ承知致シテ居ルノデアリマス、工場財團ノ財目録ニ記載セラレバキ物件ニ付テハ民法百九十二條ノ適用ガナイト云フ司法御當局ノ御答辯ニ付キマシテハ大藏省ト致シマシテモ同意見デアリマシテ、工場抵當法立法以來四十年間之ニ付テ特ニ問題モナク經過シテ參ツテ居リマスノデアリマシテ、又現ニ器具機械類ノ取引ノ實情ニ顧ミマシテモ、右ノヤウニ解釋致シマシテ何等差支ナイト存ゼラレモノデアリマスカラ、工場財團制度創設ノ趣旨ヨリ考ヘマシテモ、今日此ノ解釋ヲ變更スル必要ハナイト思フノデアリマス、

從ツテ御意見ノ如ク本法第十五條第二項ノ規定ヲ修正スル必要ハナイト考ヘテ居ル次第デアリマス、松本博士ノ御修正ノ意見ハ贊成致シ兼々ネルノデアリマス、多數ヲ以テ修正ヲ致サレタ場合ニハドウスルカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、政府トシテハ左様ナ修正ガ現實ニ行ハレマシタ場合ニハ行ハレマシタ場合トシテ、其ノ時ニハ考ヘル必要モアルカト思ヒマスガ、政府ト致シマシテハ、此ノ條文ヲ變更致ス、修正ヲ致ス必要ハナイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○松本泰治君 私人ヤウナ修正ヲスル必要ハナイト御考デアラウト云フコトハハ當然デアラウト思フノデ、其ノコトヲ伺ツタ譯デアリマセヌ、只今御述ニナツタ理由ガ餘リニヒドイ間違ヒノヤウニ思フノデ、四十年來即時取得ノ適用ガナイト解シ來タツタノデアアル、サウシテ問題ハ一遍モ起キナイト云フヤウナコトハ、一體サウ云フコトガアツタカト云フコトヲ政府委員ニ實ハ昨日モ能ク聽キマシタガ、御答辯ガ出來ナイ、無イノデ、問題ガ四十年來ナカツタコトハ事實デアリマス、是ハ恐ラクハ事實デアルト私ハ信ジテ居ル、私モ相當スウ云フコトニ付テハ注意ヲシテ居リマスガ、判例等ニナツタコトハドウモナイヤウニ思ヒマス、ナイノハ何故カト云フト、適用ガアルカラ、皆アルト考ヘテ居ル、善意デ公ノ市場ナリ或ハ其ノ向ノ商人カラ機械ヲ買ヒマス、サウシテ自分ノ所ニ据着ケテ居ル奴ヲ、オ前はハ財團目録ノ記載

ニアルモノダ、何處ノモノカ知ラヌガ何處カノ奴ニ記載ガ此ノ通りアルデヤナイカ、番號ガ合ツテ居ルデヤナイカト云フヤウナコトヲ言ツテ、此ノ機械類ト云フモノハ何十萬アルカ私ハ存ジマセヌガ、ソコノ何處カニアルデヤナイカト云ツテ、サウシテ唯取りニ來ルヤウナ非常識ナコトニハ通常ノ人ハ解釋致シマセヌ、其ノ爲ニ問題ガ今迄ナカツタト私ハ信ジテ居ル、之ヲ適用ガナイノダト云フヤウナコトニ立法ヲ御決ニナツタラ……是カラハソロソロ出テ參ルト思フノデ、四十年來問題ガナカツタト云フヤウナコトハサウ云フ解釋デ問題ガナカツタ、ト云フコトハ何モ根據モ示サレズ、何モ立證サレテ居ラヌノデ、唯サウ云フコトハ何モ根據モ示サレズ、何モ立證サレテ居ラヌノデ、同ジコトヲ言ハレテ居ツタ、ソレト同ジコトヲ大藏大臣カラ伺ヒマシタノデ、驚キ入ル話デアアル、是ハ問題ノナイモノヲ今度ハ排ヘヨウト云フ立法ダカラ宜シクナイ、左様ナ毒ノナイヤウニ直シテ宜イデヤナイカ、私ノ修正案ノ結果ハ政府ノ考ヘテ居ラレル通りニナル、又政府ノヤウナ適用ノナイト云フ解釋ガマア假ニアリトスレバ、ソレヲ排斥スルモノデモナイ、サウ云フ解釋サヘ尙容レ得ルヤウニ直シタイト云フノデ直スノデアリマス、細カイコトハ必要ガアレバ話シテモ宜シイガ、政府ノ御解釋ヲ何モ變更スルモノデモ何デモナイ、政府ノヤウナ若シサウ云フ條理ニ反シ、常識ニ反シタヤウナ御解釋ガ天下ニ行ハレナケレバナラヌト云フヤ

ウナコトニナレバ、サウ云フ解釋モ私ノ修正案ノ下デハ容レ得ル、此ノ原案デハ適用ノナイト云フコトヲ確定シテシマフ、左様ナコトヲ爲サレバ必要ガドコニアルカト云フコトヲ實ハ私ハ申シテ居ル、ソレハマア屢、申上ゲマシタカラ、他ノ委員各位ニ對シテ相濟ミマセヌカラ、其ノコトヲ議論ヲ私シヨウトハ思ヒマセヌ、又大蔵大臣ニハサウ云フ議論ヲ申シテ、サウ云フ理由ヤ何カヲ伺ハウト實ハ思ツタ譯デモゴザイマセヌ、此ノ案ニ付テ政府ノ御趣旨ヲ少シモ害シテハ居ナイ、害スルモノデナイノダ、尙且政府ノヤウナ解釋論ガ全ク正シイトスレバ、ソレモ抱擁シ得ルノデアル、唯政府ノ言ハレル此ノ適用ガナイト云フコトヲ確定ヲシナイヤウニシタイト云フコトノ意味デ、詰リサウ云フ毒ヲ取リタイト云フデケノ修正案デアリマス、サウ云フ修正案デアルガ尙且政府ハマア反對ヲ爲サル、是ハ仕方ガゴザイマセヌ、原案ヲ支持サレルノハ當然ドラウト思フ、私ハ御反對デアル、修正ノ成立タザルコトヲ欲スルト仰シヤルコトハ是ハ御無理ハナイト思フカラ、其ノ點ハ更ニ色々申シマセヌガ、サウ云フ政府ノ御趣旨ヲ少シモ害サナクテ、唯文言ヲ改メルコトニ依ツテ副産物タル毒ヲ出サナイヤウニスルト私ハマア考ヘテ居ル、サウ云フヤウナ修正スルト云フ案ガ若シ本院ノ多數ノ議員各位ノ御同意ヲ得テ出來タ時ニハ、政府トシテハ何ト云ハレルダラウ、是ハ衆議院ニ戻ツテ參レバ必ズ聽クコトデアリマス、此ノ貴族院ノ修正ニ對シテ政府ハドウ考ヘルノカ、是ハ假ニ衆議院ニ於テ之ニ同意シタ時ニハ政府ハソレデモイカヌト云フノカ、即チ御裁可ヲ奏請シナイ、此ノ法律ヲ壞シテ

シマツテモサウ云フ改正ハ撥付ケルノダト云フヤウナ御考デアアルカドウカト云フコトハ、是ハ通常聽クノデヤナカラウカト思フノデ、審議ヲスルノニハサウ云フ御考ヲ聽イテ置ク必要ガアル、其ノコトヲ私ハ聽イテ居ル、併シ大變假定的ナ先ノ話デアリマスカラ、マダ提案モシテ居ラヌノニ聽クノダカラ、サウ云フ話ニハ返答ヲシナイト仰ツシヤレバ是ハ致シ方モゴザイマセヌノデ、返答ヲ是非シテ戴キタイト云ツテモ無理ナ話デ、馬ノ水ノ側ニ持ツテ行クコトハ出來ルガ、馬ニ水ヲ飲マスコトハ出來ヌト云フ諺モアルノデ、返答ハシナイ、返答スルコトハ嫌ナンダト云フコトデ爲サラナケレバ、別ニ伺フ業モアリマセヌガ、併シ若シ御返事ガ出來ル、即チサウ害モナサウダカラ、若シ多數ノ兩院ガサウ云フ風ニナツタラ、必ズシモ政府ハ其ノ爲ニ此ノ法律ヲ潰シテシマツテモ宜イト云フ程ニ重キヲ置イテ居ルモノデナイトカ何トカ云フ位ナコトハ御考ニナツテ居ルノダラウト實ハ思ツタノデ伺ツタノデアリマス、併シサウ云フコトハ其ノ時ニナツテデナケレバ考ヘナイコトナンダ、先ヅ行キ當リバツタリニ物ハヤツテ行クノデ、考ヘルノハ必要ヲ生ジタ時ニ始メテ考ヘルノダト云フコトナラ是モ致シ方ガナイノデ、御答辯ガナケレバソレデモ宜シウゴザイマス

○國務大臣(石渡莊太郎) 司法當局ガ左様ナ法律のナ見解ヲ致シテ居リマスコトハ御承知ノ通りデアリマス、私モ數十年來左様ナ見解ヲ致シテ來テ今日實行致シテ居ル、其ノ事ガ餘リ問題モ起サナイデ今日來テ居リマスコトハ、アナタノ仰ツシヤル通りデアリマス、左様デアツタナラバ、私ハ強ヒテアナタガ修正ヲ爲サラウト思ツテ此處デ修正案ヲ出サレルコトモ、實際問題トシテハサウ大シタ問題デハナイノデハナカラウカト思フノデアリマスガ、マア是ハアナタトシテハドウシテモ修正ヲ爲サレウト云フモノヲ、私ハ別ニ止メテ戴キタイト御願シテモ、ソレハムヅカシイカモ知レマセヌガ、アナタノ修正案ガ通ツタ場合ニ、政府ハドウスルカト云フコトハ、修正案ガ若シ多數ヲ以テ通過致シマシタ場合ニハ、其ノ時ニ及ンデ考ヘルヨリ仕方ガナイト思フノデアリマス

○松本泰治君 甚ダ諄イヤウデアリマスガ、矢張り大蔵大臣ハチヨツト私ノ申スコトガ御分リニナラヌカト思フノハ、四十年来司法當局ガサウ云フ意見ヲ持ツテ居ツタト云フコトハ何モ證據ガナイノデス、ソレヲ政府委員ニ伺ツテ、何處ニソナコトガアリマスカタ云フト、何ニモソレハ示シテ御答ガ出來ナイ、ソレハ今ノ之ヲ書カレタ方ガサウ云フ考ヲ持ツタコトハ、是ハ事實ノヤウデス、併シナガラ四十年来凡ソ斯ウ云フ法律ニ關係シタ者ハ、左様ナ即時取得ニ關スル規定ガ適用ガナイナント云フ條理ニ反シ、常識ニ反スルヤウナ解釋ヲ恐ラクハシテ居ラナカツタト信ズルノデ、何處ニサウ云フコトガアリマスカ、サウ云フ説ガ世ノ中ニ行ハレテ、而モ問題ガナカツタト云フノデ、問題ノナカツタコトハ事實デ、サウ云フ間違ツタ説ガ行ハレテ問題ガナカツタノカ、或ハ正當ナ説ダツタカラ問題ガナカツタノカ、私ノ言フヤウナ考ヲ常識上誰デモ持ツカラ問題ガナカツタト思ツテ居ルノデスガ、ソレデドウ云フ證據ガアルノカト云フコトヲ昨日モ伺ツタ所ガ御答ガナイ、又御答ヘ出來

ル譯ガナイノデス、ソレデ其ノ理由ダケハ本會議等デ若シ仰シヤルト、サウ信ジテ居ラツシヤルナラバマア一向差支ゴザイマセヌガ、色々改正モシナケレバナラヌヤウナコトガ起リマスカラ、御控ナサツタ宜クハナイカト餘計ナコトデスガ考ヘル、ソレカラ假ニ私ノヤウナ修正案ガ通ツタ時ハ其ノ時ニ考ヘルト、ソレナラバ別ニ是ハ伺フ必要モゴザイマセヌ、併シ私ハ其ノ時ニ考ヘルト云フコトニ仰シヤルノハ、二ツノ中ノドツチカデアラウ、一ツハソナ修正案ガ出タツテ通りハシナトカ、或ハモウ一ツハ、萬一通ルカモ知レヌ、輕蔑ハ出來ナイ、通ルカモ知レヌガ、併シ物事ハ突キ當ツテ、馬ヲ壁ニ乘リ當テタ時ニ考ヘレバ宜シイノダ、何モ豫メ考ヘテ置ク必要ハナイト云フ御主義デ、色々政治ヲナサル人モ近頃ハアルヤウデアルガ、其ノドツチカト私思フノデスガ、是ハ甚ダ失禮ナコトヲ申シマスガ、御答辯ヲ戴カウトハ思ヒマセヌ

○國務大臣(石渡莊太郎) 只今ノ御話デアリマスガ、政府ハ修正案ノ御提出ヲ希望シテ居リマセヌ、又修正ニハ反對デアリマス、從ツテ左様ナ態度ヲ執ツテ居ルノデアリマスカラ、アナタガ一體修正シタ場合ニ政府ハドウスルカト御聽キニナルノニ御返事ヲスルノハ甚ダ苦シイノデアリマス、ソレデアリマスカラ、アナタノ修正案ガ通ツタ場合ニハ、其ノ時ニハ政府ハ考ヘルト申上ゲルヨリ外ニハ申上ゲウガナイノデアリマス、別ニ場當リ主義デ考ヘテ居ル譯デアリマセヌ、大體政府ハ反對デアリマスカラ、左様ニ申上ゲテ居ルノデアリマス

○松本泰治君 イヤ御趣旨ハ分リマシタ、考ヘテ居ルガ言ハスト云フコトニ今御答辯ニナツタヤウデ、マア審議ヲスル際ニハ成ルベク物ヲ言ツテ戴ク方ガ、實ハ心得ニナツテ、私ナドハ本會議等デ若シ物ヲ言フ時ニハ、大體其ノ方ガ宜イトハ思ヒマスケレドモ、是ハマア人ノ色々ノ意見デ先ニ申シタヤウニ、決シテ水ヲ無理ニ吞マス譯ニ行キマセヌシ、御答辯戴キナイト云フコトデ分リマシタ、是デ大蔵大臣ニ對スル質問ハ私トシテハ終リマス

○委員長(男爵東郷安吉) 大蔵大臣ニ對スル質問ハゴザイマセヌカ、ナイト認メマス、其ノ他御質疑ハゴザイマスカ、本案ニ關シテ御質疑ハ終了シタモノト認メテ宜シウゴザイマスカ

○松本泰治君 此ノ機會ニ於キマシテ私ハ只今迄屢、申述ベマシタヤウナ、第十五條第二項ノ修正ノ提案ヲ致シタイト思ヒマス、其ノ文言ハ屢、申シマシタガ、重ネテ申シマスレバ、第十五條第二項ヲ次ノヤウニ改メマス、即チ「工場抵當法第五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ同項ノ財團且録ニ一括表示セラレタル物件ニ付之ヲ準用ス」斯クノ如ク改メタイト考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ提案ノ理由ニ付キマシテハモウ屢、此ノ委員會議ニ於テ申述ベマシタノデ、重ネテ之ヲ申述ベテ時間ヲ空費スルコトヲ避ケタイト思ヒマス、若シ併シ私が申述ベマシタコトガ足リナイイト云フヤウナコトデゴザイマシタラ何時デモ補足スルコトニ致シテ、此ノ理由ハ既ニ述ベタ所ニ讓ルト云フコトデ御容赦ヲ願ハウカト考ヘテ居リマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○委員長(男爵東郷安君) 只今御聽キ
ノ通り、松本委員ヨリ修正意見ノ提出
ガゴザイマシタ、之ニ贊成ノ御方ノ舉
手ヲ願ヒマス

〔贊成者舉手〕

○委員長(男爵東郷安君) 宜シウゴザ
イマス、ソレデハ只今ノ松本委員ノ修
正意見ニハ贊成ガアツタモノト認メマ
ス、他ニ御討論ナサル方ハアリマセウ
カ

○青木一男君 昨ハ先日來松本博士ノ
御所見ヲ詳細ニ拜聴致シテ居ルノデア
リマス、又政府委員ノ答辯モ伺ツテ居
ツタノデアリマスガ、私ハ結論トシテ
松本博士ノ提案サレタ修正案ニハ反對
デアリマス、從ツテ政府原案ノ通りガ
宜シイト云フ意見デアリマス、其ノ理
由ヲ簡單ニ申上ゲタイト思ヒマス、松
本博士モ軍需金融等特別措置法案第十
五條第二項ノ内容ソレ自體ニハ御異存
ナイヤウデアリマス、反對サレル唯一
ノ根據ハ斯ウ云フ立法ヲシタ結果トシ
テ、工場抵當法ニ規定サレテ居ル工場
財團等ヲ構成スル品物が第三者ノ手ニ
移ツタ場合ノ法律解釋ニ付テ、斯カル
場合ニ第三取得者ガ即時取得ノ適用ヲ
受ケナイト云フ、コノ解釋ヲ下サレタ
結果、動産ノ取引ノ安全ヲ害スルカラ
イケナイ、斯ウ云フ點ニ反對、即チ修
正ノ理由ガアツタヤウニ拜承致シタノ
デアリマス、御議論ノ前提トシテ、現
在ノ工場財團ニ關スル規定、即チ其ノ
財團ヲ構成スルモノガ第三者ノ手ニ移
ツタ場合ノ法律的效果ニ付テ、現行法
ニ規定ガナイ、松本博士ノ御所見ニ依
ルト、寧ロ其ノ場合ニモ第三者ノ利益
ヲ保護スベキモノデアアル、少クモ其
ノ解釋ノ餘地ヲ存シテ置カケレバ

ケナイ、斯ウ云フコトガ法律論ノ前提
デアルヤウニ拜承致シマシタ、私ハ今
回政府ノ提案サレタ如キ立法ヲ致シマ
スレバ、現行ノ工場抵當法ニ關スル解
釋ニ否定的ナ、即チ反對ノ解釋ノ根據
ヲ與ヘルト云フ御判斷ニハ、其ノ點ハ
私モ左様ニ考ヘマス、併シナガラ其ノ
結果、惡イ結果ヲ與ヘル、然ルガ故ニ
修正シナクチャナラナイト云フ結論ニ
ハ、私ハ不同意デアリマス、先ヅ現在
ノ工場抵當法ニ關スル規定ガ曖昧デア
ルト云フコトニ付キマシテ、私ハ今日
ノ出來テ居ル工場抵當法ハハツキリシ
テ居ルト思フノデアリマス、即チ工場
財團ヲ構成シ其ノ正規ノ手續ニ依ツテ
表示サレタルモノガ第三者ノ手ニ移ツ
タ場合ニハ、民法百九十二條ノ適用ハ
ナイ、即チ完全ニ斯カル場合ニモ抵當
權者ガ保護サレテ居ルト云フノガ現行
法ノ定規デアルト私ハ解シマス、第五
條ニ於テ、即チ財團ヲ構成セザル簡易
工場抵當ノ規定ニ於テ、反對ノ規定、
即チ民法百九十二條ノ適用スルト云フ
明文ヲ置イタモノ拘ラズ、財團ヲ構成
致シマシタル場合ニハ斯カル規定ヲ置
カナイ、此ノ二ツノ箇條ヲ對照シテ見
マズレバ、斯カル明文ノナイ場合ニ反
對ノ結論ニナルコトハ、法律解釋ノ常識
デアルト思ヒマス、今回政府ノ原案ノ
書キ方ガイケナイ、政府ノ原案ノ如キ
書キ方デアリマスレバ、工場財團ヲ構
成スルモノニ付テノ解釋ガ反對ニナル
カライケナイト云フ御議論ハ、現行法
ノ既ニ出來テ居ル法規ニ於テ其ノ見本
ガアルノデアリマス、一方ニハ其ノ規
定ガアリ、一方ニハ其ノ規定ガナイ、
其ノ點ニ於テハ私ハモウ既ニ現行法ト
シテ其ノコトハ決メラレテ居ル問題デ
ハナイカト思フノデアリマス、更ニ明

治三十八年、工場抵當法制定當時ノ速
記録ヲ精讀致シテ見マスルト、當時貴
族院ニ於キマシテ、松本博士ノ御心配
ニナツタヤウニ、此ノ工場抵當ノ制度
ト民法百九十二條ノ關係ハ、各委員
共非常ニ憂慮サレ、小委員迄モ特ニ設
ケテ慎重審議サレタ論點デアツタノデ
アリマス、サウシテ富井博士ヲ主査ト
スル小委員迄モ設ケラレテ研究ノ結果
政府ノ原案ヲ修正シテ今日ノ法制ガ出
來テ居ルノデアリマス、其ノ修正ノ要
點ト云フモノハ今日ノ議論ニナツテ居
ル點ニ偶ニ一致スルノデアリマス、富井
博士ノ小委員會報告ニ依リマスルト、
工場抵當ヲ設定シタ場合ノ債權者ノ保
護ト動産ノ第三取得者ノ利益保護トハ
是ハ調和ハムツカシイ、何レカ一方ヲ
犧牲ニシナクチャイケナイモノダ、然
ルガ故ニ第五條ノ場合、即チ簡易抵當
ノ場合ニ於キマシテハ、第三者ノ保護
ヲ重シトシテ民法百九十二條ノ適用ヲ
認メル、併シ財團ヲ構成シタ場合ニハ
反對ダ、此ノ場合ニハ飽ク迄モ債權者
ヲ保護シテ、第三取得者ノ利益ヲ犧牲
ニスル外ハナイノダ、併シ第三者ノ利
益モ保護スル爲ニ、其ノ場合ニハ出來
ルダケ財團目錄ト云フモノヲ詳細ニ作
ルヤウニ司法省ハ考ヘロ、ト云フコト
ヲ貴族院トシテ註文サレテ居リマス、
其ノ代リ財團目錄ヲ作ツタモノハ其ノ
モノガ如何ニ轉々シテモ無効ダ、皆取
戻サレルモノデアアルカラ、初メ政府ノ
原案ニアツタ會社ノ當事者等ガ工場財
團ニ屬スルモノヲ他ノ賣ツタ場合、其ノ他
處分シタ場合ノ罰則ハ、其ノ取引自體ガ
無効デアアルカラシテ罰則ハ必要ハナイ、第
五條ノヤウナ場合ニハ罰則ノ規定ハアル
ガ、其ノ場合ハ罰則ハ必要ハナイと言ッ
テ其ノ罰則ヲ削除サレテ居リマス、斯ク

ノ如ク當時ニ於テ既ニ動産取引ノ安固
ヲ圖ルト云フ必要ハ、十二分ニ貴族院
ニ於テモ考慮サレ、ソレト比較研究シ
タ結果、結局財團ヲ構成シタ場合ニハ、
第三者ノ利益、動産取引ノ安全ト云フ
コトハ是ハ犧牲ニシテ、債權者ノ利益
ヲ保護スベシト云フ意見ノ下ニ、政府
ノ原案ヲ修正シテ現行法ガ出來テ居ル
ノデアリマス、私ハ松本委員ノ仰セラ
レタ如ク、此ノ條文ノ解釋ガ曖昧ナモ
ノデアルトカ、未定ノ儘ニアルト云フ
御所見ニハ、私ハ承服致シ兼ネル者デ
アリマス、從ツテ先程來質問應答ガア
リマシタヤウニ、此ノ問題ガ裁判ニモ
ナラナイト云フコトハ、立法當時カラ
ハツキリシタ、斯カル沿革ニ基イテ政
府委員ノ答辯セラレタ如ク、斯カル場
合ニ民法百九十二條ノ適用ガナイト
云フ前提ノ下ニ今日迄我が國ノ法律生
活ハ經過シテ居ルモノト私ハ解スルモ
ノデアリマス、次ニ松本博士ハ斯カル
法律制定當時ノ事情ハドウアラウト、
今日動産取引ノ安全ヲ圖ル爲ニハ、自
分ノ意見ノヤウニ解サナケレバ、カ
ス、工場財團ヲ作ツタ場合ニモ之ニ屬
スル動産ノ善意ノ第三取得者ヲ保護シ
ナケレバナラナイト云フコトヲ力説サ
レテ居リマス、私ハ法律ノ解釋ト云フモ
ノハ、時勢ノ變化ニ應ジテ、殊ニ國家
ノ利益ヲ主トシテ變化アルコトハ豫想
致シマス、併シナガラ本案ノ問題ニ於
テハ結論トシテ、松本博士ノ仰セラレ
タ所論トハ全ク反對ノ見解ヲ持スル
モノデアリマス、即チ斯カル立法當時
ノ沿革ガ博士ノ御所論ノ如キモノデア
ツテモ、今日ハ寧ロ反對ノ解釋スベキ
國家の必要ガ生ジテ居ルノデハナイカ
ト思フ位デアリマス、動産取引ノ安全
ヲ圖ルト云フコトハ、是ハ固ヨリ大事

ナコトデアリマス、併シナガラ立法當
時ニ於テモ既ニソレヲ犧牲ニシテ債權
者ノ保護ヲ重シトセラレタノデアリマ
ス、私ハ今日ハ債權者ノ保護トハ申シ
マセウ、今日軍需工場等ニ屬スル重要
ナル機械、器具、其ノ他ノモノガ非合
法ニ、不法ニ持出サレルト云フコトハ、
如何ナル見地カラ見テモ國家の損害デ
アリマス、今日ノ工場抵當法ト云フ
モノハ、我々今日要求スル如ク、國家的
見地カラ其ノ財産ノ散逸ヲ防グガ爲ニ
制定シタル法律デアアリマセウ、併シ
ナガラ結果ニ於テハ偶ニ、債權者保護ノ
爲ニ作ラレテアル工場財團ニ關スル法
制ト云フモノガアツタガ故ニ、今日軍
需工場ニ屬スル財産ガ散逸スルコトヲ
防グ爲ニ如何バカリ效果ガアツタカ
云フコトヲ私ハ考ヘルモノデアリマス、
從ツテ若シ今日ノ如キ工場財團ニ關ス
ル規定ガナイナラバ、其ノ財産ノ散逸
ヲ防グ爲ノミニモ、私ハ法律ヲ制定ス
ル必要ガアルノデハナイカトサヘ考
ル位デアリマス、此ノ國家的戰時下ニ
大事ナ工場財産等ノ散逸ヲ防グ必要ハ、
明治三十八年工場抵當法制定當時カラ
見テ何十倍増エテ居ルカ分リマセウ、
然ルニ當時ノ議會ニ於テハ、財産取得
者ノ權利ヨリモ債權者ノ保護ヲ重シト
シテ現行法ヲ作ツタノニ、此ノ戰時下
財産ノ散逸ヲ防止スル必要ガ何十倍カ
殖エテ居ル今日、第三取得者ノ利益ヲ
保護シ、動産ノ取引ノ保護ヲ重シトスル
ヤウナ意見ハ、私ハ今日想像スルニ苦
シム次第デアリマス、次ニ松本博士ノ
御所見ヲ先日來伺ツテ居リマスルト、
工場財團ニ屬スル動産ガ第三者ノ手ニ
移ツタ場合ニハ、第三者ハ所有權ヲ取
得スル、併シ抵當權ハ附イテ行クノデ
アル、抵當權モ存スルト云フ御説明ヲ

爲サツテ居リマス、此ノ點ニ付キマシ
テハ私ハ一方ニ於キマシテハ工場財團
ト云フモノハ土地、建物、機械、器具
其ノ他ノ財産ヲ一體トシテ運用スル點
ニ非常ナル經濟的、法律的意義ガアル
ト思フノデアリマス、若シ之ヲバラム、
ナ一ツノ物トシテ取扱フテ差支ナイナ
ラバ、財團ノ如キ特殊ナリ制度ヲ置ク必
要ハアリマセヌ、是等ノ各種ノ財産ガ
一括シテ管理サレ、運営サレ、監督サ
レテ始メテ茲ニ特殊ナル經濟價值ヲ生
ジ、債權者モ特殊ナル保護ヲ受ケルノ
デアリマス、然ルニ其ノ財團ニ屬スル
一部ノ財産ガ、第三者ノ手ニ渡ツテ、
其ノ債權者ノ保護ガ及ンデ財團ノ一
部ヲ引續キ構成スルガ如キ法律ノ構想
ハ財團制定ノ趣旨ト相容レザルモノデ
アルト思フノデアリマス、又民法第百
九十二條ノ即時取得ノ規定ハ瑕疵ナキ
權利、即チ抵當權ノ如キ瑕疵ノ件ナハ
ザル完全ナル權利ノ取得ヲ豫想シタル
規定デアルト思フノデアリマス、然ル
ニ御説ノ如ク抵當權ガ附イテ行クト云
フコトデアリマシテハ、是ハ常識的ニ
モ亦立法的ニモ民法第百九十二條ノ精
神、殊ニ博士ノ非常ニ力説サレテ居ル
如ク、動産ノ取引ノ安全ト云フヤウナ
目的カラ見マスレバ、相隔ツル非常ナ
ルモノガアルト思フノデアリマス、即
チ工場財團ノ側カラ見テモ、又動産ノ
取得者ノ立場カラ見テモ、極メテ不徹
底ナル經濟的結果ニ終ルノデアリマシ
テ、是ハ斯クノ如キ解釋ノ下ニ今日ノ
工場財團ニ關スル法制ヲ解決シ、又解
釋スルコトハ適當デナイト私ハ考ヘマ
ス、又博士ノ修正説ハ工場抵當權ノ第
五條ノ規定ヲ適用サレヨウトスルノデ
アリマスガ、私ハ斯クノ如キ修正ヲサ
レテモ工場財團ニ屬スル財産ガ第三者

ノ手ニ渡ツタ場合ノ法律的效果ニ付テ
ハ、依然トシテ御懸念ノ如キ不安ナル
結果ヲ遺スノデハナイカト思フノデア
リマス、御心配ノ如キ影響ヲ除去スル
ニハ足りナイ修正案デハナイカト思ヒ
マス、更ニ博士ハ此ノ修正案デモ結果
ハ同ジデハナイカト云フ御主張ヲ、殊
ニ政府委員ニ對シテ屢、御述ニナツテ
居ルノデアリマスガ、是ガ政府原案ト
シテ提案サレルモノデアリマスレバ、
私ハ其ノ何レデモ結果ハ同ジヤウニナ
ルト思フノデアリマス、併シナガラ今
日トナリマシテハ、政府ノ原案ガ此ノ
原案ノ通りデ、之ニ對シテ松本博士ノ
御意見ノ如キ根據ニ基イテ議會ガ之ヲ
修正シタルレバ私ハ其ノ結果ハ等シ
クナイト思ヒマス、即チ松本博士ノ御
主張ノ如キ根據ニ基イテ修正サレタル
ナルト、工場財團ニ關スル現行法ノ解
釋ニ於テ影響スル所ガ少クアリマセ
ヌ、殊ニ裁判所ニ對スル影響ガ少クア
リマセヌ、其ノ影響ニ付テハ、當初私
ガ述べマシタ如ク、私共ハ立法當時以
來、政府委員ノ述べラレタ如キ解釋ノ
下ニ運行スルノガ今後モ宜シイ、斯ウ
考ヘルモノデアリマスカラ、博士ノ御
主張ノ如キ修正ニ依ツテ、先程申上ゲ
マシタガ、影響ヲ與ヘルコトハ宜シク
ナイト考ヘマスルノデ、其ノ見地カラ
モ、御指摘ノ如キ修正案ニハ反對スル
者デアリマス、私ノハ是デ……

○松本泰治君 委員長、伺ヒマスケレ
ドモ、討論ニ付テデスネ、再討論的ノコ
トハ、先ヅ御許ニナツタ例モ私ハ知ツ
テ居リマスガ、ソレハ御許ニナラヌヤ
ウニ御考デゴザイマセウカ、今仰シヤ
ツタコトニ、事實ノ、議論ヲ通シテデ
ナク、事實ニ於テモ誤ガアツタウニ
思ヒマスガ、實ハ只今仰セラレタコト
ガ、政府委員カラ仰セラレタナラ直チ
ニ私ハ能ク質問ヲ直シマス、サウシ
テ御間達ヒダラウト云フコトヲ申上ゲ
タイノデアリマスガ、不幸ニシテ、政
府委員ハ私ノ質問ニ對シテハ殆ド答辯
ヲシテ戴ケナカッタ、唯斯ウダト云フ
コトヲ言ハレルダケデ、理由等ハ何モ
述べテ戴ケナカッタ、只今始めテ政府
委員デモ仰シヤリサウナ理由ヲ御述
ニナツタノヲ伺ツタノデアリマス、之ヲ
伺フト、非常ニ色々ナ點デ私ノ趣旨ガ
徹底シテ居ナイ爲ニ起ツタ誤解ト、ソ
レカラ事實ニ付テ間違ツタ御述ベ方ト
ガアツテ、ソレデ固ツテ居ルヤウニ實
ハ私ハ思フノデスガ、併シ討論ニ對シ
テ更ニ討論スル、又討論ヲ重スルト云
フコトハ御許ニナラナレバ勿論致シ
マセヌシ、又若シ一遍御許ニナルナ
ラ申上ゲタ方ガ宜イト思フノハ、政府
委員ガ何モ答辯サレナカッタモノデ、
私トシテサウ云フ反對説ニ對シテ何モ
言フ機會ヲ實ハ與ヘラレテ居ラナカッ
タト云フコトデ、サウ云フコトヲ申上
ゲタイノデスガ、是ハドウナリ御決メ
通りニ從ヒマス

○委員長(男爵東郷安君) 御答ヘ申上
ゲマス、本院ノ議事上ノ先例ニ依リマ
スト、討論ニ於テハ一人一回トサレテ
居リマス、既ニ松本委員ハ修正案ノ提
出ニヨリ一回討論サレタモノト認メマ
ス、但シ修正案ノ理由ノ補足又ハ修正
案ヘノ質疑ニ對スル答辯ナラバ發言シ
得ルコトヲナツテ居リマス、左様御承
知ヲ願ヒマス

○松本泰治君 ソレデハ私ノ修正案ノ
理由ヲ申述べタコトモアルノデスガ、チ
ヨット複雑ニナツテ居リマス爲ニ、只
今ノヤウナ御議論モ或ハ出タカト思ヒ
マスノデ、討論ニ對シテ更ニ決シテ討
論スルト云フ意味デナク、私ノ修正案
ノ理由ガ十分ニ説明サレテ居ラナカッ
タト云フ點デキ付テノミ言ハシテ戴
カウト思ヒマス、ソレハ外デモナイノ
デスガ、抵當權ノ保護シナレバナラ
ヌ、抵當權ノ即時取得トハ全然相容レ
ナイ觀念トシテ、片方ヲ立デレバ片方
ハ全然潰サナレバナラヌト云フヤウ
ナコトヲ前提トシテ今御議論ガアツ
タヤウニ思ヒマスガ、サウデナイト云
フコトハ、實ハ最初述べタ時ニ申上ゲ
テ居ル積リデアリマスケレドモ、申し
方ガ甚ダ不足ダツタ爲ニ、私ノ趣旨ガ
徹底シテ御了解ガナカッタノデハナイ
カト思ヒマスノデ、其ノ點ヲ先ヅ一ツ
ダケ申上ゲタイト思ヒマス、抵當權ノ保
護、ソレカラシテ即時取得ト云フコトハ
片方ヲ立デレバ片方ハ立タナイト云フ
コトヲ前提トシテ只今頻リニ御議論ガ
アツタ、抵當權ノ完全ニ保護スル爲ニ
ハ、ドウシテモ即時取得ヲ殺サケナレ
バナラヌト云フコトニ聞エタ、ソレガ
一番主ナ御議論ノ根據ニナツテ居ツタ
カト思ヒマスガ、其ノ點ハ實ハ私ハ説
明デ簡單ニ申上ゲテ置イタ、兩方ヲ適
當ニ保護出來ルベキモノデアリス、又
現行法ノ解釋ハサウスベキモノデア
ルト云フコトヲ申上ゲテ置イタ積リデア
リマス、ソレヲ更ニ申上ゲマスガ、工
場抵當法第五條ノ場合ニハ、所謂簡易
工場制度デアリマシテ、是ハ工場抵當
以外ニハ斯ウ云フ例ハゴザイマセヌ、
他ノ鐵道抵當等ハ斯ウ云フ例ハゴザイ
マセヌガ、此ノ場合ニハ五條ノ規定ニ
依リマシテ、民法第百九十二條乃至第
百九十四條ノ規定ノ全面的ニ適用サレ
ルコトヲ抵當權ノ存在ハ豪モ妨ゲナイ
ト云フコトヲ書イテアリマス、此ノ時
ハ詰リ即時取得ノ方ガスツカリ勝ツテ

シマツテ抵當權ハ全ク及ビ得ナイト云
フ意味デアリマス、併シナガラサウデ
ナイ場合ニハドウカ、サウデナイ場合ハ
反對ニナラナレバナラヌ、苟クモ抵
當權ノ方ガアル以上、即時取得ハナイ
ノダト云フヤウニ、又ナイト見ナケレ
バ抵當權ノ方ハ出來ナイト云フヤウナ
コトヲ前提デ、只今御話ガアリマシ
タガ、ソレハ私ノ説明ガ足リナカッタ
爲ニ或ハサウ云フ誤解ガ出來タカト思
フ、サウデナイト云フコトハ實ハ申上
ゲタ積リデ居ルノデスガ第一ニ即時取
得ノ規定ト云フモノハ、性質上他ノ權
利ヲ邪魔スル權利ハ排斥ヨスルモノ
ダト云フコトハ其ノ通りデアリマス、
若シ即時取得ノ目的ノ上ニ物權ノヤウ
ナモノガアレバ、是ハ排斥シナケレバ
ナリマセヌ、併シナガラ此ノ財團系統
ノ場合ニハ、財團ニ屬スルモノノ上ニ
抵當權ハ存シテ居ルノデハナイノデア
ル、抵當權ハ財團ト云フ法律ニ依ツテ
一ツノ不動産ト看做サレ、或ハ又物ト
看做サレテ居ルモノノ上ニ抵當權ガ存
在シテ居ル、財團ニ屬スル財産ノ上ニ
ハ何等抵當權ハ存シテ居ナイ、唯其
ノ財團自體ヲ一ツノ物ト見テ、其ノ上
ニ抵當權ガ存シテ居ル結果、財團ニ屬
シテ居ルモノニハ抵當權ノ拘束ガ及
ビ過ギナイ、仍テ斯クノ如キ拘束ガ存
在スルコトト即時取得ガ完全ニ行ハレ
ルト云フコトハ、決シテ矛盾スル觀念
デハナイノデアリマス、即チドウ云フ結
果ニナルカト云フコトヲ實ハ説明ヲ申
上ゲタノデアリマスガ、全然御聽キニ
ナツテ居ラナイノデハナイカト思ヒマ
スガ、若シモ抵當權ヲ此ノ抵當權ノ目
的タル、財團ニ屬スル財産ガ即時取得
ニ依ツテ取得サレル時ニハ、財團目
録ニ記載ノアル、通常ノ今迄ノ場合ト

致シマシテハ、完全ナ所有權ヲ取得スルノデハモウ問題ハナイ、併シナガラ同時ニ抵當權ノ目的タル財團ノ一ツノ組成分子デアッタト云フコトヲ消シテシマフ理由ハ毫モナイノデアリマス、其ノ拘束ハ受ケル、其ノ拘束ヲ解イテアルハ即チ工場抵當法第五條ノ規定デアリマス、私ノ修正案デハ、工場抵當法第五條ノ場合ト同ジヤウニ、抵當權ノ拘束ヲ全然解イテシマフ、私ハ此ノ場合ニ解イテシマフコトヲ第五條ノ適用ニ依ツテ言ヒ表シタラソレデ宜イデヤナイカト云フコトハ申シテ居ル、本則ニ立戻ツタ時、即チ財團目錄ニ記載ノアル場合申セバ、抵當權ノ拘束ハアル、併シナガラ所有權ハ完全ニ取得スル、其ノ結果トシテ、若シ抵當權ノ行使ニ依ツテ其ノ財産ガ財團ニ併シテ處分サレテ他人ノ手ニ入ツテシマツタ時ニハ、是ハ即時取得者ハ仕方ガナイ、併シナガラ即時取得者ハ物上保護人ト同ジ權利ガアルカラ、即チ適用サルベキモノデアルカラ、サウ云フ保護ハアル、即チ無償デ取ラレシマフノデナイ、取ラレタ以上ハ其ノ求價ハ出來ルト云フコトニナル、茲ニ於テカ即時取得者ニモ保護ハアル、又抵當權者ノ方ニモソレダケノ保護ハアル、即チ其ノモノハ假令他人ノ手ニ入ツテモ、附イテ行ツテ矢張り處分サレルト云フコトニナル、而モ實際ニ於テ抵當權ノ行使ニ依ツテ處分サレルヤウナコトハ、實際上ハ殆ドナイ、今迄モ小サナ財團等ニ付テハ或ハアツタラウガ、大キイモノデハナイ、而シテ抵當權設定契約ニハ必ズ條項ガアリマシテ、其ノ條項ニ依ツテ抵當權者ハ其ノ財團ニ屬スル財産ヲ始終検査ガ出來、報告ヲサセ

ルト云フコトガ出來ルコトニシテ居ル、抵當權者ノ保護ハ其ノ検査等ニ依ツテ十分果サレル、而シテ又其ノ契約ノ條項ニ依リマシテ、若シアルモノガナカツタト云フヤウナ時ニハ、直チニ其ノ無クナツタ物ハ之ヲ財團カラ取除イテ、其ノ代リニ新ラシイ物ヲ入レ足スト云フコトガ出來ルコトニシテ居ル、是ハ總テノ財團ノ抵當權設定契約ニハ皆サウ云フ條項ガアルカラ、抵當權者ノ保護ハソレデ十分デアル、詰リ此ノ本則ノ財團目錄調整ノアル場合、即チ從來ノ場合及ビ今後モ本則ハサウナルノデアラウト思ヒマスガ、其ノ場合ニ於キマシテハ、抵當權者ハ今申シタヤウナコトニ依ツテ十分保護ヲ受ケ、而シテ第三者ハ、若シ抵當權ガ實行サレルヤウナ時ニハ、意ニ反シテ其ノ物ヲ持つテ行カレルヤウナ不便ハアルケレドモ、併シナガラ十分求價ハ勿論出來ルシ、又通常ノ場合ニハ無クナツタ物ハ財團カラ之ヲ解放シテ取除イテシマフト云フコトニナツテ居ルカラ、何等不便ヲ感ジナイ、サウ云フヤウナコトニナツテ居リマスカラ、今迄モ雖モ澤山ノ即チ取得ハ私ハアツタと思フ、併シ其ノ即時取得者ハ何等抵當權ノ行使或ハ其ノ他ノコトニ依ツテ權益ヲ妨ゲラレルコトハナシニ居ツタノデアツテ、故ニ問題ガ一ツモ出ナカツタ、嘗テ問題ガ出ナイデ済ムダ、サウ云フヤウニ私ハ見テ居ルト云フコトヲ嘗テ御説明申シタト思ヒマスガ、餘リ細カイ點デアルノデ或ハ御聽取ニナラナカツタカモ知レナイノデス、ソレニ基イテ詰リ抵當權ノ存在ト即時取得トハ絕對ニ相容レナイモノデアアル、ドツチカラ立テレバ他ノモノハナクナツテシマフノドト云フヤウナ前提デ、色々御議論ガアツタ

ヤウニ思フノデ、ソレハ私ノ説明ガ足リナカツタ爲ト思ヒマスノデ補足シタインデアリマス、モウ一ツ補足シテ置キタイコトハ、是ハ實ハ政府委員ニ對シテ質問シタ時ニ申シタ積リデ居リマスガ、貴族院ノ修正報告等ノ速記録ノコトデアリマス、是ハ富井博士ハ勿論此ノ抵當權ノ保護スルヤウニシナケレバナラヌト云フコトハ言ツテ居ラレマスガ、抵當權ノ保護ノ結果只今述ベタヤウニ、即時取得ヲ全然排斥シテシマフノドト云フヤウナコトハ、必ズシモ言ツテ居ラレナイ、此ノ點ニ付テハ、ソレハ讀ミ方ニ依ツテハ誤解ガアリ得ルト云フコトハ、最初カラ申シテ居ル、其ノ際ニ政府委員ノ答辯ノ中ニハ、寧ロ私ノ考ヘテ居ルヤウナ前提カラデナイト云フコトモ言ツテアル、此ノ細カイコトヲ論ジマスルト、其ノ速記録ヲ以チマシテ、實ハ非常ナ大部ノ速記録デアリマス、小委員會ノ速記録ガ……サウ云フモノヲ今持出シマシテ、細カイ御説明ヲシテ此ノ點ヲ爭フコトハ甚ダ不本意デアルカラ、是ハ政府委員ニ私ハドウ云フ所ニサウ云フモノガアルカ、若シヤント言ハレルナラバソレニ付テ議論スルケレドモ、併シ是ハドツチニモ讀メル、讀ミ方ニ依ツテハ讀メルヤウニナツテ居ルノダカラ、其ノコトハ止メラレタ方ガ宜イデヤナイカト云フコトヲ言ヒマシテ、政府委員トシテハ場所ヲ示シテ其ノコトハ言ハレテ居リマセヌ、只今何カ非常ニ明カニ其ノ修正報告等ニ於テ左様ナコトガ現ハレテ居ルカノ如キ御説明デアツタノデアリマスガ、是ハ誤解ヲ招ク處ガアルノデ、私ハ其點ハ質疑ニ於テ、サウ云フ點ガアルノデ示サウトオツシヤルナラバ示シテ戴クガ、サウスルト

又政府委員ノ答辯等ニ於テ矢張り即時取得ノ規定ガ適用ガアルト見ナケレバ、ドウシテモ讀メナイ所ガアルノダカラ、サウ云フ點ヲ一々言フト大變デアルガ、言フ積リナラバ御言ヒナサイ、サウスレバ速記録ヲ此處ヘ持つテ來テ細カク議論シテモ宜シイト云フコトヲ申シタノデ、政府委員ハ其ノコトハ御止メニナツタヤウニ私ハ記憶シテ居リマス、只今ハソレヲ、極メテ明カニ何カ當時立法ノ際ニハサウ云フコトニ決メテアツタト云フヤウニ御考ノヤウダガ、決シテサウデハナイノデ、即時取得ト抵當權ノ存在トハ兩々必ズシモ相妨ゲナイト云フ頭デ政府委員ハ答辯サレテ居ル點ガ確カニアル、此ノ材料ナドヲ材料トシテ御議論ニナルコトハドウデアラウカト考ヘマスガ、是ハマア討論ガマシク聞エルカラ申上ゲマセヌガ、實ハ昨日デゴザイマシタカ、政府委員ニ對スル質問ノ際ニ、サウ云フ質問應答ヲ致シタト云フコトヲ或ハ御承知ガナクテ、只今ノ御發言ガアツタカト思フノデ、補足シテ申上ゲタイト思フノデアリマス、マア其ノ他色々ノコトモ御話ガアリマシタガ、私ガ矢張り説明ヲシナクチャイケナカツタカモ知レヌコトガ一ツアリマス、ソレハ工場財團ノ散逸ヲ防グコトデ非常ニ保護シテ置カヌト防止サレナイト云フヤウナコトデス、此ノ點ニ付テハ私ハモウ少し説明シテ置ケバ宜カツタと思フ、善意取得者ノ權利ハマルデ認メラレナクナルノドト云フ說ヲ採ツタナラバ、工場財團ハ散逸シマス、何故ト云フト、別ニエラク注意シテ居ラヌデモ、盗ミ出スヤウナヤツヲ監督シナイデモ、第三者ノ手ニ入ツタヤツヲ見付ケテ取出セバ宜シイ、サウ其ノ注意ヲ

シテ取出サレナイヤウニシナクテモ宜イト云フコトニ解釋ハナルノデス、サウ云フコトニナリマシテハ、却テ不取締ニナルヤウニ思フ、今ハ若シモウツカリ盗ミ出サレデモスルト大變ダ、其ノ結果ハ抵當權者ガヤツテ來テ検査ヲシテ、足リナイデヤナイカ、補足シロト云フヤウナコトヲヤラレルカラ、是デヤタマラナイト云フノデ、十分ナル注意ヲ出來ルダケ善良ナル管理者タル工場主ハシテ居ルト私ハ信ジテ居ル、其ノ爲ニマアフシダラノヤウナコトノナイヤウニ思フ、若シ此ノ工場財團ノ目錄ニアル所ノ財産、是ハ全國ニ於テ何十萬點アルカ存ジマセヌガ、苟モサウ云フ目錄ニアル以上ハ、何時デモ行ツテ取出セルンダト云フコトニナツテハ、先ヅサウ注意ヲシナイデモ宜イ、寧ロ工場主ヲシテ注意ヲサシムルコトニナルンゾヤナカラウカ、私ハ或ハソレニ近イコトヲ申シタガ、存ジマスガ、十分記憶ヲ致シテ居リマセヌノデ此ノ事ヲ申シマス、其ノ他色々ノコトガゴザイマスガ、若シ委員長ガ御許シ下サツタ即チ説明ノ補足ト云フコトヲ濫用スルヤウニ聞エルヤウニナリマシテハ非常ニ相濟ミマセヌ、即チ討論ニ對スル討論ガマシクナリマシテハ相濟ミマセヌ、サウ云フ意味ナラ私ハ申上ゲタイコトモゴザイマスガ、大體其ノ位ニシテ、後ハ意見ノ相違ト云フコトニナルト思ヒマス、事實ニ付テダケノコトヲ只今ノ仰セデ申シタモノト御認メ願ヒタイゴザイマセヌカ、討論ハ終結シタモノト認メテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員長 男爵東郷安君 御異議ナイト認メマス、是ヨリ採決ニ移リマス、

先づ松本委員ノ第十五條ニ關スル修正案ヲ議題ト致シマス、修正案ニ御賛成ノ御方ハ御起立ヲ願ヒマス

〔起立者少數〕

○委員長(男爵東郷安君) 起立者少數ニ依リマシテ修正案ハ否決セラレマシタ、就キマシテハ原案全部ヲ問題ニ供シマス、原案全部ニ御賛成ノ御方ハ御起立ヲ願ヒマス

〔起立者多數〕

○委員長(男爵東郷安君) 多數ト認メマス、仍テ原案ハ可決致サレマシタ

○瀧正雄君 此ノ際チヨット委員長ニ御願シタイコトガアリマス、ソレハ松本委員ガ本會議ニ修正案ヲ御提出ニナルカドウカハ、ソレハ別問題ト致シマシテ、此ノ際少數意見ヲ述ベル機會ヲ失ハシテシマフト云フコトハ如何カト存ジマスカラ、其ノ機會ヲ失ハセナイヤウニ、委員長カラ松本委員ニ少數意見ヲ述ベル意思アリヤ否ヤヲ御確カメ置キヲ願ヒタイと思ヒマスガ如何デスカ、其ノ手續ヲ御執リニナラヌト少數意見ヲ述ベルコトガ出來ナクナル虞ガアリマス

○委員長(男爵東郷安君) 御答ヘ致シマス、規則ニ依リマス、少數意見ヲ出ス場合ニ於テハ委員會ノ三分ノ一ノ贊成ガアリマスレバ宜シウゴザイマス、只今ノ採決ノ結果ハ其ノ要件ヲ充タシテ居リマス、就キマシテハ、松本委員ハ少數意見ヲ御出シニナル御意向デスカ、御伺ヒシテ置キマス

○松本丞治君 只今瀧委員カラ御注意ヲ受ケマシタガ、私ハ少數意見ヲドウシテモ述ベザルヲ得ナイカト考ヘテ居リマスノデ、述ベル機會ヲ與ヘテ戴キタイと思ヒマス

○委員長(男爵東郷安君) ソレデハ本

委員會ハ之ヲ以テ閉會致シマス、色々有難ウゴザイマシタ

午後二時二十七分散會

出席者左ノ如シ

委員長 男爵東郷 安君
副委員長 子爵裏松 友光君
委員

侯爵德川 賴貞君
侯爵中山 輔親君
侯爵西郷吉之助君
伯爵柳澤 保承君
子爵大岡 忠綱君
子爵松平 親義君
子爵水野 勝邦君
青木 一男君
坂西利八郎君
男爵高木 喜寛君
松本 丞治君
河田 烈君
男爵宮原 旭君
有賀 光豊君
瀧 正雄君
竹下 豐次君
磯貝 浩君
中島德太郎君
古莊健次郎君
岩田 三史君
國務大臣 石渡莊太郎君
政府委員 大藏政務次官 小笠原三九郎君
大藏省總務局長 山際 正道君
大藏省銀行保險局長 迫水 久常君
大藏書記官 吉村 成一君
同 福田 赳夫君
同 櫛田 光男君